

川越市青少年を育てる 市民会議

令和6年2月1日(第49号)

発行 川越市青少年を育てる市民会議
事務局 川越市こども未来部こども育成課
TEL 049-224-5724(直通)

青少年健全育成川越市民大会

共催 川越市青少年を育てる市民会議 川越市 川越市教育委員会



第三十九回 青少年健全育成川越市民大会を開催しました

昨年十一月四日(土)、川越市やまぶき会館ホールにおいて、「第三十九回青少年健全育成川越市民大会」を開催しました。

この大会は、青少年育成関係者が一堂に会し、総意を結集して活動の一層の推進を図ることを目的に毎年開催しているものです。

主催者として川合善明市長、宮岡寛青少年を育てる市民会議会長のあいさつ、来賓あいさつに続き、感謝状の贈呈、青少年育成活動顕彰(かしの木褒賞)、青少年地域活動顕彰(やまぶき褒賞)、少年の主張作文入賞者の表彰を行いました。

あいさつをする川合市長

表彰の後、少年の主張作文最優秀作品の発表と新保教育長

による講

評、新型

コロナウ

イルスの

影響によ

り、四年

ぶりに行

われた、

川越市少

年の翼事

業の体験報告がありました。研修生

代表の東中学校三年の川端ほまれさ

んが、川越での事前研修や、本研修が

行われた北海道での体験を報告して

くれました。

ガールスカウト川越地区協議会の

勝田千穂さんにより大会宣言が提唱

され、来場者の拍手で承認されまし

た。締めくくりには、青少年活動事

例発表として県立川越高等学校音楽

部による合唱発表が行われ、約三百

名の方に来場いただいた市民大会は、

盛況のうちに終了しました。



大会宣言を読み上げる勝田さん



川越市シンボルマーク

青少年健全育成に尽力された方々を表彰しました

青少年健全育成川越市民大会で表彰された方々を、ご紹介します。(敬称略)

感謝状

市民会議の運営に尽力いただき、その功績が顕著な方に感謝状を贈りました。



◆個人(三名)

- 武井 良夫(川越市青少年を育てる第4地区会議)
- 星野 順子(川越地区私立幼稚園協会)
- 佐々木 孝子(川越市私立保育園協会)

青少年育成活動顕彰 「かしの木褒賞」

青少年の健全育成に尽力し功績顕著な成人の方に、市の

木になみなみ名付けられた「かしの木褒賞」を贈りました。



◆個人の部(二名)

- 山口 令子
 - 対崎 薫
- 該当なし

青少年地域活動顕彰 「やまぶき褒賞」

明るく住みよい地域社会をつくるため、健全な地域活動に励んでいる善行青少年に、市の花になみなみ名付けられた「やまぶき褒賞」を贈りました。

◆個人の部(八名)

- 阿部 太亮
 - 荒幡 華那
 - 伊藤 凜
 - 釜本 拓海
 - 佐藤 花奏
 - 増岡 涼太
 - 茂木 陽菜多
 - 森下 遥稀
- ◆団体の部
星野高等学校国際文化部



少年の主張作文

少年の主張は、次代を担う青少年が日々考えていることや夢、希望

を作文にすることで、同世代の意識啓発と青少年に対する市民の理解と関心を高めることを目的に今回は、九百六編の応募があり、その中から入選作品十五編を、本大会で表彰しました。また、最優秀賞受賞者による朗読が行われました。

◆中学生の部

最優秀賞(全文三頁に掲載)

○私達の知らない傷跡

佐藤 早良子 霞ヶ関東中二年

優秀賞

○家族に「ありがとう」

味村 優芽 東中三年

○清掃と向き合う

矢島 更紗 川越西中三年

入選

○最後の教え

笠原 理央 野田中三年

○文豪と人生会議

神原 千織 野田中三年

○僕を成長させてくれた剣道

磯崎 匠人 城南中二年

○分かり合うための努力

小野寺 美有 城南中三年

○ジレンダー問題に向き合う

大河原 紗南 高階西中一年

○目に見えないもの

菊池 陽斗 高階西中三年

◆高校生・一般の部

最優秀賞

○水と海、人と世界

宋 美雅 砂中二年

○いつまでも変わらない「好き」

酒井 茜 霞ヶ関東中三年

○私の主張

眞田 晴彩 川越西中一年

○底辺の仕事なんてない

奥富 寛太 川越西中二年

○言語の学びを通して

趙 芹菜 秀明高二年

○いつかの正解へ

佐藤 葉月 秀明高一年



私達の知らない傷跡

霞ヶ関東中学校二年 佐藤 早良子

皆さんは、戦争についてどう考えますか？私はそう問われたら真つ先に、二度と繰り返してはならない歴史だと断言します。

私がこう考え、文に表そうと思ったのは、夏休みに戦争を題材とした舞台に立ち、当時の人々を演じたことがきっかけです。戦争の舞台を演じるうえで、常に死と隣り合わせの感情とはどのようなものなのか、死の間際に人は何を思い、何をするのか深く考えましたが、私は上手く形にすることができず、暖



昧な気持ちのまま本番を迎えてしまいました。しかし、そんな戦争という歴史に真つ向から向き合ったなかで、琴線に響いた最後の言葉があります。

「死なないで。どうか最後まで生き延びて。」
公演初日に、演出家の方から頂いた最後のダメ出しでした。演出上、皆物語の中で何度でも死に、最終的に誰一人欠けることなく再度死んで終幕となります。ですが、それはあくまで舞台の常識です。私は知らず知らずの間に、死ぬことが普通であると錯覚したまま、当時の切羽詰まった心情を理解しようとしていましたが、この言葉を聞いて気付かされ、その時初めて、決められたシナリオに抗って「生きたい」と思い、戦争という歴史の本質を少し理解できた気がしました。

皆さんは、「生きたい」と切に願ったことはありませんか？又、その感情を理解することはでき

ますか？私達が平凡な時代を進んでいく限りは、殺し、殺される恐怖や、生への強い執着を感じることは無いでしょう。だから、戦争の残酷さがどれほどものなのか知らない無知な私達が、どれだけの熱量を注いだとしても、きつとけれん味のない演技には届かないのだと思いません。しかし、私達演者がパフォーマンスとして続けていくことで、当時の人々が流した血の意味を知ることができるのではないか、いつの日か、観客の中の誰かがそのメッセージに気づいて、心の釘となってくれることを信じ、来年も再来年も私は、一時の虚構を全世代へ届けていきたいです。

「世界中で二度と戦争が繰り返されて欲しくない」それは、今年の夏、平和を祈念する事業に参加して初めて心から言えた事です。私が言うのもおこがましいのですが、私は今の、平和で満たされた時代を生きる人々に、もっと平和がどれだけ尊く、争うことがどれだけ愚かなことなのかを、戦争の歴史を通して感じて欲しいと思っています。私達は昔の人々が紡いできた歴史の上に成り立ち、たとえ悲しい歴史でも、その思いに触れたからこそ私達は今も生

きています。そして、どんな場所であってもこの広い世界で出会えたことは奇跡であり、それを踏みにして争い続けることは間違いだと思えます。その間違った何度も繰り返してほしくない。だからこそ、私は戦争を批判し、世界の平和を望みます。しかし、もう忘れてしまいたいと考える方もいらっしゃるかもしれません。確かに、時はどんな傷さえ忘れていくことができます。そして新たな希望を紡いでくれます。だけどそれでも良いのでしょうか。傷つくことも傷つけることも生きることです。でも確かなのは、争いを望む人はそういないということです。時に忘れてしまいたくなるかもしれない。でも現実と幻の区別がつかなくなるような歴史を繰り返したくはないから、私はより多くの人に戦争を知って頂いて、私自身も絶対に忘れたくない、忘れて欲しくないと思えます。

私一人に世界を変える力はありません。でも、世界を平和に導く第一歩が生まれる可能性を信じて、私は、今後とも変えられない歴史を舞台という手段で伝え、変えることのできる未来を変えていきたいと強く思っています。

少年の主張作文

教育長講評(要約)

令和五年度川越市少年の主張作文の選考にあたり、教育長として講評いたします。

今回は中学生の部に七百九十九編、そして高校生及び一般の部に百七編という例年を大きく上回る応募があったと聞いて喜ばしく思っております。

今回、最優秀賞を受賞した霞ヶ関東中学校二年生の佐藤早良子さん、夏休みに戦争を題材とした舞台で当時の人を演じたことで、戦争について考えるようになり、「二度と戦争は繰り返してはいけない」という強い思いを抱くようになります。自身の体験を基に、自分の率直な思いを豊かな言葉で表現しています。平和への熱い思いが、たまたまかける文章で綴られているのがとても印象的です。

教育長としては、市立学校すべての児童生徒が、今ある事象に疑問や課題をもち、作文などを書く、話すことの体験や学習に積極的に取り組む、自分の考えを形成し、適切に相手に伝える力を身に付けることを切に願っています。

次代を担う多くの青少年たちが、このような自分の考えを伝える経験をを通して、誇りと自覚をもち、心豊かな人間に成長していくことを願っております。

第十九回川越市少年の翼体験報告(要約)

研修生代表 東中学校三年 川端 ほまれ

私は、少年の翼で責任感や協力をはじめとする多くの力をつけることができました。

期待と不安を胸に迎えた「少年の翼」事業説明会。自己紹介で堂々と話す仲間の姿を見て、改めて学校、そして川越市の代表であるという自覚と責任が芽生えました。

三日間の事前研修では、本研修中に行うディスカッションやウタリ祭の準備、研修地中札内村について学びました。特に印象に残っていることは、川越市と中札内村を結ぶぶきかけを作った川越市の名誉市民相原求一朗画伯の「子息、相原茂吉さんのお話を伺ったことです。求一朗画伯の夢を抱き、追いかけて続ける

人生を知り、中札内村の相原求一朗美術館に行くのが楽しみになりました。

そして迎えた北海道での本研修。中札内村は広大な大地、澄んだ青空、青々とした山々に囲まれていました。最初の活動であるパークゴルフでは仲間との距離を縮めることができ、団結力も高めることができたと思えます。

二日目に行った相原求一朗美術館は幻想的な林の中。館内は自然の奥深さと広大な大地を描いた絵で溢れていて、求一朗画伯の北海道に対する気持ちが伝わってきました。川越では求一朗画伯の絵だけを見ましたが、中札内村ではアトリエを再現した場所や求一朗画伯の生い立ちを写真も含めて見ることで、事前研修で学んだことをより深められました。夜は来村歓迎会があり、会の終盤には中札内村の伝統芸能であるポロシリ太鼓を聞くことができました。体の芯まで伝わってくる音色に感動するとともに、村の方の温かさを改めて実感しました。

三日目は、お世話になった中札内村を離れ、帯広市で酪農体験。酪農家の方から、朝早くから搾乳をしたり、牛の体調に合わせて餌を準備したりしていることを伺い、そのお陰で私たちの生活が支えられていることを改めて感じました。また、搾乳体験やアイスクリーム作りを通して生命の尊さを再認識することができました。夕方行ったディスカッションでは、各班があらかじめ決めたテーマについての結論を発表し合いました。私の班は「学校生活における少子高齢化」について調べました。実際に先生方へのインタビューを基に班での話し合いを重ね結論を導き出すことで、新たな発想力を養うことができました。

四日目に行った川村カ子トアイヌ記念館では、アイヌの伝統楽器ムックリ作りを行いました。竹を細く削るとしても神経を使い大変な作業でしたが、世界に一つだけのムックリが完成したときの達成感は大きかったです。アイヌ舞踏の体験も行いました。アイヌの歌は独特な発音で戸惑いましたが、リズムに合わせて歌うことで楽しむことができました。アイヌ文化を知らなかったけれど、自ら体験し良さを知り、多くの人に広まり受け継がれてほしいと思いました。夜はウタリ祭を行いました。ウタリとはアイヌ語で仲間という意味で、最高の仲間と劇やダンスを発表し

合ったことでより絆が深まりました。最終日には、青い池の見学。池が青い理由がアルミニウムを多く含んだ地下水が混ざっているからと聞き、自然によって作られる神秘を間近で見て感動しました。青い池が北海道での最後の見学地であり、池を見終える研修が終わってしまい、かけがえのない仲間と過ごした日々も終わってしまうと考えると、悲しい気持ちにもなりました。

三日間の事前研修と五日間の本研修を通して責任感や協力性だけでなく、仲間の大切さを実感することができました。顔も名前も知らない状態から始まったけれど協力して研修を達成できたという経験や、かけがえのない仲間との絆は、私の宝物です。研修にたずさわってくださった多くの方々への感謝を胸に、今後の人生に役立てていきたいと思えます。



大会宣言

青少年が、心身ともに健やかに育ち、希望に満ちた明るい社会の発展に寄与することは、市民すべての願いである。

私たちは、次代を担う青少年に対し、豊かな愛情と深い信頼のもとに、市民総ぐるみによる健全育成運動を更に推進することを決意し、次のことを提唱する。

一 青少年が自信を持つことができ、未来に夢や希望を描きながら明るく生活できる「環境づくり」を推進しよう。

一 あいさつ・声掛け運動で地域の見守り活動を推進し、関係機関・団体と連携して、いじめや差別、犯罪被害から青少年を守ろう。

一 人を思いやる心を持ち、家族や友達を大切にする青少年に育てよう。

一 携帯電話・インターネット等の使用に関する家庭のルール作りを推進し、曖昧な情報に流されない、責任感のある行動をとれる青少年に育てよう。

一 様々な世代がお互いに楽しく元氣よく会話をし、見守りができる。「顔の見えるコミュニケーション」を地域で創ろう。

以上宣言する。

令和五年十一月四日

第三十九回

青少年健全育成川越市民大会



民会議